

一月二十八日(土)

平成二十九年 度 金沢学院大学 入学試験問題 (一般入試「期」(二日目))

国 語

(注意事項)

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから19ページまであります。

第3問・第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。
問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

(解答上の注意)

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに対して

④と解答する時は、下記の(例)のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

(例)

| 解答番号 | 解 答 欄 | | | | | | | | | |
|------|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | ① | ② | ③ | ● | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～9）に答えよ。

「アイアムソーリー、アイキャンノットスピークイングリッシュ」

二〇〇八年二月八日、ストックホルム大学大講堂におけるノーベル賞受賞講演会で、益川敏英（一九四〇～） （ますかわとしひで） 京都大学名誉教授は冒頭、きれいな英語でこう話された。そしてそのあと、日本語で素晴らしい講演を^①ヒロウ（ひろ）されたのだった。日本語による受賞講演は、作家の^②川端康成氏以来ではなからうか。

南部陽一郎博士（一九二一～）、小林誠博士（一九四四～）とともにノーベル物理学賞を受賞された益川博士は、一躍、（イ）となったが、多くの人々を惹きつけたのは、その本音で語る態度だった。受賞が決まって「たいしてうれしくない」と言ってみたり、「三六年前の過去の仕事ですし……」と話したりしたが、こうした発言には、それまでの月並みな絶讃型・全肯定型のノーベル賞報道にない、正直さや人間としての温かさがにじみ出ていたと思う。そうした点で、益川博士は、科学の素晴らしい^③広報マンを演じてくださった。

一九八〇～九〇年代に日本で開催された国際会議でも、この「アイキャンノットスピークイングリッシュ」をたびたび聞いた記憶がある。ただ、これを聞いて隣の外国人が怒り出したことがあった。英語で断っている、英語で話せるじゃないかというのだ。もちろん冗談なのだが、日本人のこのニュアンスを伝えるには、たぶん、「アイキャンノットスピークイングリッシュ・ウエル（あるいはフルーエンツリー）」と言う必要があるのかもしれない。（エ）ながら、益川博士はきちんと英語をお読みになることができる。なぜなら、あのノーベル賞講演でも、英語で書かれたいくつもの研究論文を引き合いに出されていたからだ。

英語を話すのが苦手なことを益川博士は隠さなかった。それゆえに、一般の日本人にも、いったい科学と英語はどのような関係にあるのか、改めて考える機会を与えてくれたのではないか。当たり前の話だが、英語のスピーチなど流暢にできなくても、日本語による^④セイミツ（せいみつ）な思考や議論を通じて、人類が迫りうる最も^⑤シンエン（しんえん）な理論や考察はできるのだ。益川博士はそのことを、改めて教えてくれたのである。科学においては、英語なんかより、日本語の数学や物理学が大事だということである。

日本の科学者の大半は、いまは論文は英語で書くのが普通になっている。三〇年ほど前は、日本語論文を掲載する学術雑誌もたくさんあったが、現在ではほとんどが英語論文雑誌に変わっている（それゆえの問題がいろいろ生じていると指摘する研究者もいる）。

日本人科学者の英語の話し下手は、実は広く知られている。でも、だからと言って、日本人科学者がバカにされているわけではない。その理解力には定評があるし、超一流の英語論文を書く。英語を聞くことも、話すほどではないが、まあよくできる。逆に、益川博士のケースなどは、⁽²⁾英語をほとんど話せない科学者が人類最高の仕事をした、という裏返しの驚きを与えている。特に近年、日本人科学者による研究の質が高いことは、さまざまな分野ですでに定評となっている。それとの関係もあって、世界の優れた科学者や科学関係者の一部は、日本人が英語ではなく日本語で科学や技術を展開していることに、ようやく気がついたようだ。

科学知識には「英語以外の言葉による表現形式」が存在すること、その代表的なものが日本語の科学であること。それを最初に認識したのは、私の知る範囲では、今は亡きネイチャー誌の名編集長ジョン・マドックス氏だった。ただ、この話はたぶん、「再発見」にすぎない。過去にも異文化である日本の科学の質の高さに気づいた人は、たくさんいたようである。

日本人は日本語で科学をしている。実はこの話を持ち出すと、科学者を含め、たいがいの人から「何のことですか？」と言われてしまう。実際、第一線の科学者に「先生は日本語で考えて科学をされているのですよね？」と持ちかけてみるのだが、一〇人が一〇人、（カ）。みなさんはどう思われるだろうか。日本人だから日本語を話す。だから日本語で科学研究をする。あるいは日本語で技術の研究をして画期的な工業製品を作る。これは、本当に当たり前のことなのだろうか。

では逆に、なぜ日本人は英語で科学をしないのだろうか。フィリピンやインドネシアなど東南アジアの国では、最初から英語で科学教育を進めているところが多い。なぜ日本（と中国）だけが違うのか。

その理由は、日本語の中に、科学を自由自在に理解し創造するための用語・概念・知識・思考法までもが十二分に用意されているからである。そして、日本で生まれた成果や概念は、日本の科学者や技術者による大量の英語論文を通じて、日常的に外国に伝達されている。だからこそ、日本の人も外国の人も、日本人科学者が日本語で科学を創造・展開している事実に改めて注意を払わないのだ。

私は科学ジャーナリストとして、翻訳（日本語と英語）という作業が関与する場面で、特に多くの仕事をしてきた。それもあって、この「日本人は日本語で科学をする」という事実が、決して自明ではないことを何度も何度も体感してきた。⁽³⁾ 翻訳を「ヨコをタテ、タテをヨコに変えるだけ」と見くびる人がいるが、それは大間違いだ。

過去一五〇年以上にわたり、私たち日本人は、最初は中国文化に始まり、蘭学、そして近代西欧文明と、それまで自分たちが持っていなかった新しい知識や概念や文化を積極的に取り入れてきた。言語が違うのだから、そこには必ず翻訳という行為が存在した。その際、単なる言葉の移し替

えでは済まないことも多々あったであろう。そこで、新しい言葉を創造して、概念知識や思想哲学まで、きちんと吸収したのだ。だからこそ、例えば今日の科学において、自由に新しい成果を生み出す言語環境が整ったのだ。私自身、新しい概念が新しい漢語日本語として生まれていく場面に幾度も立ち会ったことがある。

だからいま、こう考えている。日本語で科学ができるという ケ 現、実に深く感謝すること、この歴史的事実正面から向き合ってきたらと評価し大切に伝統を保持していくこと、それが日本語で科学することの④イギであり⑤セキムである。それは日本の科学や技術を発展させる原動力となり、世界中の人々が望んでいることにつながっていくはずだ、と。

(松尾義之『日本語の科学が世界を変える』筑摩選書、一部改変。)

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。

① ヒロウ 1

① いつも心身がヒヘイしている。

② ヒガイシヤをマスコミから守る。

③ 真意をヒレキする。

④ ヒハンばかりするな。

⑤ ヒジヨウな仕打ち。

② セイミツ 2

① シンセイシヨを提出する。

② セイシユクにしなさい。

③ セイリヨウインリヨウスイの飲み過ぎ。

④ 甘酸っぱいセイシユンの思い出。

⑤ 英文をセイドクする。

③ シンエン 3

① シンカイギヨが浜に流れ着いた。

② 記念シヤシンを撮る。

③ 世間をシンカンとさせた事件。

④ シンミツな関係になる。

⑤ 日本サッカーのシュゴシン。

④ イギ 4

① 古くから続くツウカギレイ。

② ギリの親子。

③ シンギを確かめる。

④ モギテストの結果が届いた。

⑤ 無駄なギセイを強いられたくない。

⑤ セキム 5

① シャクドウイロの肌。

② シャクヤに住む。

③ 見苦しいシャクメイ会見。

④ 良心のカシヤクに苦しむ。

⑤ ホウイジシヤクが狂う。

問2 傍線部(ア)「川端康成」が執筆した作品を①～⑧の中から二つ選べ。解答番号は 6 7。

① 『三四郎』

② 『雪国』

③ 『走れメロス』

④ 『小僧の神様』

⑤ 『羅生門』

⑥ 『銀河鉄道の夜』

⑦ 『伊豆の踊子』

⑧ 『山月記』

問3 空欄(イ)、(エ)に入れるのに最も適当な語句を、次のそれぞれの語群①～⑤の中から一つずつ選べ。

解答番号は (イ) 8、(エ) 9。

(イ) ① 折の人

② 風の人

③ 巷ちまたの人

④ 時の人

⑤ 節の人

(エ) ① 蛇行

② 蛇足

③ 蛇蝸かっ

④ 蛇口

⑤ 蛇腹

問4 傍線部(ウ)「広報マン」とあるが、益川氏は何を広報したのか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選べ。

解答番号は 10。

- ① 日本の科学者には英語をわざと話さずに外国人記者を怒らせるというユーモアのセンスがあること。
- ② 日本では英語を流暢に話せなくても読むことができれば、世界を驚かせる実績が残せるということ。
- ③ 日本の科学者にとっては、大昔の実績でノーベル賞を受賞するのはさほど嬉しいことではないこと。
- ④ 日本の科学者は英語は十分に話せないが、正直で人間としての温かさがにじみ出る話ができること。
- ⑤ 日本においては英語ではなく、日本語で科学を思考したり議論したりすることが大事だということ。

問5 傍線部(オ)「英語をほとんど話せない科学者が人類最高の仕事をした、という裏返し」の驚きを与えている」について、周囲が驚いた理由として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 英語による科学教育が世界的に進められているにもかかわらず、それが大幅に遅れている日本から、ノーベル賞受賞者が出たから。
- ② 科学は英語で思考・議論するのが世界標準なのに、英語による議論をほとんどしない日本の科学者が人類最高の仕事を残したから。
- ③ 英語を得意としない日本人が、英語をほとんど使わない、日本語だけの思考や議論を通じて、人類最高の大きな業績を残したから。
- ④ 日本人は、英語による議論も思考も十分にできないと思われるが、実は英語の理解力は高く、超一流の英語論文も書けるから。
- ⑤ 「アイキャンノットスピークイングリッシュ」等と言いながら、実は英語を普通程度には話せる日本人が大きな業績を残したから。

問6 空欄（カ）に入れるのに最も適当な語句を、次の語群①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 12。

- ① ふざけているのかと叱られてしまう
- ② 忙しいので邪魔だと言われてしまう
- ③ 何のことかとキョトンとされてしまう
- ④ 英語でも考えますよと笑われてしまう
- ⑤ 日本語の何がいけないのかと逆に質問されてしまう

問7 傍線部（キ）「なぜ日本人は英語で科学をしないのだろうか」に対する本文の答えとして、最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 13。

- ① 日本人は新しい漢語を創造することで、新しい概念や思想を生み出してきたから。
- ② 一五〇〇年以上にわたり、日本人は日本語で思考するというのが伝統であるから。
- ③ 科学を日本語だけで十分に思考できるほど、日本語の言語環境が整っているから。
- ④ 新しい知識や概念や文化を、日本人は翻訳を通じて積極的に海外に発信したから。
- ⑤ 日本語で科学ができるという極めて恵まれた環境に、深く感謝し続けているから。

問8 傍線部(ク)「翻訳を「ヨコをタテ、タテをヨコに変えるだけ」と見くびる人がいるが、それは大間違いだ」とあるが、なぜ大間違いなのか。その理由として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 単なる言葉の移し替えでは済まず、新しい概念を表す言葉を創造せねばならない場合もあったから。
- ② ただ言葉を移し替えるだけでは、日本語として通じる表現にならないことがほとんどであったから。
- ③ 手間暇をかけて言葉を移し替えるよりも、新しい言葉を創り出す方がはるかに効率がよかつたから。
- ④ 単なる翻訳だけでは、新しい概念や知識、思考法をそのままの形で取り入れることができないから。
- ⑤ 私たち日本人には翻訳を通じて海外文化を取り入れてきたという一五〇〇年以上の歴史があるから。

問9 空欄 ケに入れるのに最も適当な語句を、次の語群①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 当然の
- ② ありえない
- ③ ありふれた
- ④ 当たり前でない
- ⑤ 困難を極めた

第2問 次の問題文は、伊藤左千夫の小説『浜菊』の一節である。語り手（「予」・「余」）である「矢代」は、東京から柏崎に住む旧友「岡村」を訪ねるが、昨年、一昨年の訪問の時とは異なり、冷たい対応に戸惑っていた。それに続く以下の場面の文章を読み、後の問い（問1～5）に答えよ。なお設問の都合上、原文の表記を変更した箇所がある。

予は新潟からここへくる二日前に、この柏崎在なる洪川の所へ手紙を出して置いた。云ってやった通りに洪川が来るならば、明日の十時頃にはこへ来られる都合だが、こんな訳ならば、云うてやらねばよかったにと腹に思いながら、とにかく座蒲団へ胡坐をかいて見た。気のせいかいやに湿りぼく腰の落つきが悪い。予の神経はとかく一種の方面に過敏に働く。厄介に思われてるんじゃないかしら、何だか去年やその前年来た時のようではない。どうしたって来たから仕方なしという待遇としか思われぬ。来ねばよかつたな、こりや飛だ目に遭つたもんだ。予は思わず歎息が出た。

岡村もおかしいじゃないか、訪問するからと云うてやった時彼は懇に返事をよこして、楽しんで待ってる。君の好きな古器物でも席に飾って待つべしとまで云うてよこしながら、親父さんだつて去年はあんなに親切らしく云いながら、Aの友じゃないか。厄介というても一夜か二夜の宿泊に過ぎんだ。どうも解らんない。それにしても家の人達はどうしたんだろう。親父さん、お母さん、それからお繁さん、もう寝たのかしら。お繁さんはきつと家に居ないに違いない。お繁さんが居れば、まさかこんなにおれに厭な思ひはさせまい。そうだきつとお繁さんが居ないに違いない。

予は洋燈を相手に、八畳の座敷に一人つくねんとしてまとまった考えがあるでもなく、淋しいような、気苦しいような、また口惜しいような心持に気が沈む。馬鹿々々しく頭が腐抜けになったように、吾れ知らず「こんな所へくることよせばよかつたなア」とまた独言ちた。そんな事なかえつて岡村はどうしたろうとも思わないでいるところへ、蚊帳の釣手の鏝をちやりちやり音をさせ、岡村は細君を先きにして夜の物を運んで来た。予は身を起してこれを戸口に迎え、

「夜更にとんだ御厄介ですなア。君いつこう蚊は居らんようじゃないか。東京から見るとここはよほど涼しいなア」
「ウン今夜は少し涼しい。これでも蚊帳なしという訳にはいかんよ。戸を締めると出るからな」

細君は帰ってしまう。岡村が蚊帳を釣ってくれる。予は自ら蒲団を延べた。二人は蚊帳の外で、暫く東京なる旧友の噂をする、それも一通りの消息を語るに過ぎなかつた。「君疲れたらう、寝んでくれ給え」岡村はそういって、宿屋の帳付けが旅客の姓名を宿帳へ記入し、あとでお愛想に少しばかり世間話をして立去るような調子に去ってしまった。

予は彼が後姿を見送って、彼が人間としての変化を今更の如くに気づいた。若い時代の情熱などいうもの今の彼には全く無いのだ。旧友の名は覚えて居っても、旧友としての感情は恐らく彼には消えて居よう。手っとり早く云えば、彼は全く書生氣質が抜け尽して居るのだ。普通な人間の親父になつて居たのだ。

やれやれそうであつた、旧友として訪問したのも間違つていた。厄介に思われて腹を立てたも考えがなかつた。予はこう思うて胸のとどこおりが一切解けてしまつた。同時に旧友なる彼が野心なき幸福を悦んだ。

欲を云えば際限がない。誰にも彼にも非常人的精進行為を続けて行けと望むは無理である。子を作り、財を貯え、安逸なる一町民となるも、また人生の理想であると見られぬことはない。普通な人間の親父なる彼が境涯を哀れに思うなどは、出過ぎた料簡じやあるまいか。まずまず寝ることだと、予は雨戸を閉めようとして、外の空気の爽かさを感じ、また暫く戸口に立つた。

風は和いだ。曇つては居るが月が上つたと見え、雲がほんのり白らんで、朧氣に庭の様子が判る。狭い庭で軒に迫る木立の匂い、苔の匂い、予は現実を忘るるばかりに、よくは見えない庭を見るとはなしに見入つた。

北海の波の音、絶えず物の崩るるような響、遠く家を離れてるといふ感情が突如として胸に湧く。母屋の方では咳一つするものもない。**B**も寂然と眠に入つた。予は何分寝ようという気にならない。空腹なる人の未だ食事をとり得ない時の如く、痛く物足らぬ心の弱りに落ちつくことが出来ぬのである。

元氣のない哀れな車夫が思い出される。この家の門を潜り入つた時の寂しさが思い出される。それから予に不満を与えた岡村の仕振りが、一々胸に呼び返される。

お繁さんはどうしたかしら、どうも今居ないらしい。岡村は妹の事について未だ何事もおれには語らない。お繁さんは無事でしょうなど、聞きたくてならないのを遂に聞かずに居つた予は、一人考えに耽つていよいよその物足らぬ思いに堪えない。

新潟を出る時、僅かな事で二時間汽車の乗後れをしてから、柏崎へ降りてもただ淋しい思いにのみ襲われ、そうしてこの家に著いてからも、一として心の満足を得たことはない。その多くの不満足の中に、最も大なる不満足は、この家にお繁さんの声を聞かなかつた事である。ああそうだ外の事は一切不満足でも、ただ同情ある殊に予を解してくれたお繁さんに逢えたら、こんな気苦しい厭な思いに悶々しやしないに極つてる。いやたとえ一晩でも宿めて貰つて、腹の中とは云え悪くいは気が咎める、もうつまらん事は考えぬ事と戸を締めた。

洋燈を片寄せようとして、ふと床を見ると紙本半切の水墨山水、高久靄厓で無論真筆紛れない。夜目ながら墨色深潤大いに氣に入つた。この気分

のよいところで早速枕に就くこととする。

強いて頭を空虚に、眼を閉じてもなかなか眠れない、地に響くような波の音が、物を考えまいとするだけなお強く聞える。音から聯想して白い波、蒼い波を思い浮べると、もう番神堂が目に浮んでくる。去年は今少し後であった。秋の初め、そうだ八月の下旬、浜菊の咲いてる時であった。

お繁さんは東京の某女学校を卒業して、帰った間もなくで、東京なつかしの燃えてる時であったから、自然東京の客たる予に親しみやすい。一日岡村とお繁さんと予と三人番神堂に遊んだ。お繁さんは C 以上の美人ではないけれど、顔も姿もきりりとした関東式の女で、心意気も顔、姿の通りに快潤な爽かな人であった。こう考えてくるとお繁さんの活々とした風采が明かに眼に浮ぶ。

土地の名物白緋の上布に、お母さんのお古だという藍鼠の緞子の帯は大へん似合っていた。西日をよけた番神堂の裏にちようど腰掛茶屋に外の人も居ず、三人は緩り腰を掛けて海を眺めた。風が变つてか海が晴れてくる。佐渡が島が鮮かに見えてきた。佐渡が見えると海全面の景色が皆活きてくる。白帆が三つ東に向つて行く。動かない漁舟、漕ぐ手も見ゆる帰り舟、それらが皆活気を帯びてきた。山の眺めはとにかく、海の景色は晴れんけりや駄目ですなアなどと話合う。話はいつか東京話になる。お繁の奴は東京の話というと元気が別だ。僕等もう東京などちつとも恋しくない。兄がそういえばお繁さんは、兄さんはそれだからいけないわ。今の若さで東京が恋しくないのは、男の癖に因循な証拠ですよ。生意気いうようだけど、柏崎に居たつて東京を忘れられては困るわね矢代さん。そうですとも僕は令妹の御考えに大賛成だ。

こんな調子で余は岡村に、君の資格を以てして 今から退隱的態度をとるは、余りに勇氣に乏しく、資格ある人士の義務から考えても、自家將來の幸福を求むる点から考えても、決してその道でないと説いた。岡村は冷かに笑つて、君の云うことは尤もだけれど、僕は別に考えがあるという。兄さんの考えというのは怪しいとお繁さんが笑う。妹さんの云う通りだ、東京がいやというは活動を恐れるのだ。活動を恐れるのは向上心求欲心の欠乏に外ならぬ。おれはえらい者にならんでもよいと云うのが間違っている。えらい者になる気が少しもなくても、人間には向上心求欲心が必要なのだ。人生の幸福という点よりそれが必要なのだ。向上心の弱い人は、生命を何物よりも重んずることになる。生命を極端に重んずるから、死の悲哀が極度に己れを苦しめる。だから向上心の弱い人には幸福はないということになる。宗教の問題も解決はそこに帰するのである。朝に道を聞いて夕べに死すとも可なりとは、よくその精神を説明して居るではないか。

岡村は欠びを噛みしめて、いやありがとう、よく解つた。お繁さんは兄の冷然たる顔色に落胆した風で、兄さんは結婚してからもう駄目よと叫んだ。岡村は何に生意気なことをと目に角立てる。予は突然大笑してそのいざこざを消した。そうして話を他へ転じた。お繁さんは本意なさそうにもう帰りましようと言いついて帰る。予はお繁さんと岡村とあべこべなら面白いがな、惜しい事じゃと考えたのであった。

予は寝られないままに、当時の記憶を一々頭から呼び起して考える。それを思うとお繁さんの居ない今日、岡村に薄遇されたのに少しも無理はない。予も腹のどん底を白状すると、お繁さんから今年一月の年賀状の次手に、今年の夏も是非柏崎へお越しを願いたい。今一度お目に掛って信仰上のお話など伺いたく云々とあつたに動かされてきたと云つてもよいくらいだ。それに来て見れば、お繁さんが居ないのだから……。お繁さんは結婚したのだろう、どんな人と結婚したか。お繁さんに不足のないような人は無造作にはあるまい。岡村に一つ聞いて見ようか、いや聞くまい、明日は早々お暇いそごととしよう……。

(新潮文庫『野菊の墓』より。一部改変。)

(注) 蚊帳の釣手の鑲：「蚊帳」は、蚊などの害虫から人などを守るための網で、部屋の四隅の釣り手に通して釣り下げる。「鑲」は、蚊帳の天井の四隅に付ける輪のこと。

紙本半切：「半切」は、唐紙・画仙紙などの全紙を縦半分に切ったもので、「紙本」は、それにかかれた書画のこと。

高久靄厓：下野(栃木県)出身で、江戸後期の文人画家、南画家。

番神堂：新潟県柏崎市にある日蓮宗妙行寺の境外仏堂。日本海を望む岬の高台にあり、眺望が抜群で柏崎の名所でもある、日蓮上人ゆかりの仏堂。

緞子：模様を織り出した織物の一種。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語句の、この本文における意味内容として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は、(ア) 16、(イ) 17、(ウ) 18。

(ア) 「懇に返事をよこして」

- ① 抜け目なく巧妙に返事をよこして ② いい加減に返事をやり過こして
- ③ 取り立てて意味もなく返事をして
- ④ 心こまやかに返信をよこして ⑤ 驚くほどすぐに手紙を返して

(イ) 「二人つくねんとして」

① ひとりで寂しそうに涙を流して

② ひとりでやることなく退屈して

③ ひとり言をつぶやいてみて

④ ひとりには寂しいので居たたまれず

⑤ ひとりで何事もせずぼんやりとして

(ウ) 「今から退隱的態度をとる」

① すぐに多忙な仕事から退いて余裕ある仕事へ転職する

② 今の若さで第一線の活動から退いてひまな身となる

③ 今でも若いのに都会から地方へ移住し自然に親しむ

④ 若いうちから他人との付き合いを嫌って山にこもる

⑤ 若いのに隠居した老人のように田舎の生活を好む

問2 本文の空欄 A、B、C に入る最も適当と思われる語句を、次の①～⑧の中から一つずつ選ぶ。

解答番号は、A 〓 19、B 〓 20、C 〓 21。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ① 十人並 | ② 十八番 | ③ 世間体 | ④ 十人十色 |
| ⑤ 世間一体 | ⑥ 一心同体 | ⑦ 一瀉千里 | ⑧ 百里遠来 |

問3 傍線部(エ)「朝に道を聞いて夕べに死すとも可なり」は、『論語』の孔子の言葉「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」を踏まえた表現であるが、ここでは具体的にはどういう意味で用いられているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 22。

- ① 『論語』の孔子の教えを直接受けられるならばすぐに死んでもよいと思うほど、儒学などの学問に熱心であるという意味。
- ② 人生の幸福においてその日に死んでもよいと思えるほど十分に満足することが、宗教の問題でも大切であるという意味。
- ③ 向上心求欲心が強ければ生命を極端に重んずることがないので、死の悲哀に苦しむこともなく活動ができるという意味。
- ④ 人生の真実を知ることができればその日に死んでもよいと思えるほど、人生の問題を追究した方がよいという意味。
- ⑤ 人生の幸福において人間は向上心求欲心が強くなければ、宗教なしでも心安らかに死を迎えることができるという意味。

問4 この本文全体における語り手「予」(余)の心境の説明として、最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 23。

- ① 昔は東京で向上心を持って活動していた旧友「岡村」が地方で結婚して平凡な生活を送っているのを目の当たりにし、その野心なき幸福がどうしても理解できず、既に自分とは全く話が通じなくなっていることに激怒し、悲しむ心情を描いている。
- ② 学生時代は自分と同じように向上心を持って東京で活動していた旧友「岡村」が、才能があるのに田舎で安逸なる一町民になっているのは理解できないが、それも理想の人生だと納得して、「お繁さん」のことを思い出すことで気を紛らしている。
- ③ 学生時代は野心を持って活動していた旧友「岡村」が、故郷で普通の人間の境涯になったことを軽蔑したが、昨年妹の「お繁さん」も「兄さんは結婚してからも駄目よ」と言っていたことを想起して、それも無理もないと自分に言い聞かせている。
- ④ 昔と変わってしまった旧友「岡村」が赤の他人のように自分を冷遇したことに対するやり場のない不満と、以前ほのかに好意を抱いていた「お繁さん」が不在であることの失意の気持ちを重ね合わせ、旧友に対する複雑な心情を吐露している。
- ⑤ 去年の秋の初めに出会った「お繁さん」のことが忘れられず、今年の年賀状に夏も是非柏崎へお越しを願いたいとあったのでわざわざやってきたのに、「お繁さん」は既に結婚してしまったことを知って自暴自棄になったことを告白している。

問5 この本文の文体や表現の特徴に関する説明として、最も適当なものを次の①～⑥の中から「1」つ選べ。

解答番号は 、。

- ① 客観的な視点によって登場人物の行動や心理を精緻に描き、特に主人公の「矢代」の感情の推移をリアルに描き出した文体である。
- ② 語り手が「矢代」・「岡村」・「お繁」それぞれの登場人物に焦点を当てて、お互いの感情や心の複雑な駆け引きを描き出している。
- ③ 語彙や漢字表記には文語的要素も残っているが、「云うて」・「〜じゃ」・「〜てる」など口語的な言い回しが特徴的な文体である。
- ④ 「矢代」の一人称告白体の語りに比喻や擬人法などの技法を使用し、修辭的表現で詩的なニュアンスを鮮やかに醸し出している。
- ⑤ 語り手の言葉に風刺や皮肉の表現を多用することで、登場人物の滑稽なふるまいや主人公の喜劇的な立場を巧みに表現している。
- ⑥ 風景や自然の写生文的な描写も印象的であるが、一人称の語り手によって主人公の感情や心理を率直にわかりやすく表現している。

※次の設問から、受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

○健康栄養学科・スポーツ健康学科・経営情報学科・文学科（英米文学専攻・心理学専攻）・芸術学科の受験者

↓第3問へ

○文学科（日本文学専攻・歴史学専攻）の受験者

↓第4問【古文】へ

第3問 次の問いに答えよ。

(A) 次の(1)～(5)の傍線部の漢字表記として最も適当なものを、それぞれの語群の①～⑤の中から一つずつ選べ。

解答番号は ～ 。

(1) 故人のイシを尊重する。

- ① 意思 ② 意志 ③ 違旨 ④ 医師 ⑤ 遺志

(2) カイシンの笑みを浮かべる。

- ① 改心 ② 回心 ③ 快心 ④ 改新 ⑤ 会心

(3) ケイチヨウ費を徴収する。

- ① 傾聴 ② 慶弔 ③ 計帳 ④ 軽重 ⑤ 軽佻

(4) 勝利のセイサンがある。

- ① 生産 ② 清算 ③ 精算 ④ 成算 ⑤ 凄惨

(5) 注意サンマンになってはいけない。

- ① 散慢 ② 散漫 ③ 散万 ④ 散満 ⑤ 散饅

(B) 次の文章の空欄 A E の中には、後の①～⑤のいずれかの文が入る。それぞれ適当なものを一つずつ選べ。

解答番号は A 〓 31、B 〓 32、C 〓 33、D 〓 34、E 〓 35。

「われわれはみな携帯電話を内蔵した存在になった」とジャン・ボードリヤールが書いたのは早くも一九九〇年代だったが、事態はいま、文化論の象徴表現的次元をこえて、はっきりと現実化しています。

A ボードリヤールは「生活とイメージの過剰接近」や「時間的・空間的隔たりの無力化」により人間社会に「重大な混信状態」が生じるだろうと予言していますが、いまがまさにそれです。秋葉原事件はボードリヤールの予感の現実化ともいえます。

ぼくらのばあいは、青年期になっても、各種モニター画面はもとより、携帯もなかったわけです。携帯をもっているのは、「あんた、サラ金の取りたて業者じゃないの？」というぐらいの偏見をもっていたりした。B 電車のなかで携帯をいじって、携帯でしゃべっている。ぼくはそれをエッセイにもしたことがあるけれど、異様さしか感じなかった。

C だから、ぼくは他者を難じるのではなく、自分の反省もふくめて、それでよかったのかとおもうのです。すべてのコミュニケーションがじつのところ、なりたっているようであり、「重大な混信状態」におちいっているとぼくは感じています。

なかなか携帯がつかなくなったり、メールをうまく受信できなかつたり、あるいは自分のパソコンの調子が悪くて起ちあがらなかつたりしたときに、非常に不機嫌になってしまう。逆に、携帯もパソコンも非常に快調に受信し発信できているとき、検索もスムーズにいくとき、なにか妙に朗らかになったりする。つまり、自分の生体というものがデジタル機器の端末と化している。その好不調で自分の内面の色あいが決められている。それはおかしい。D

それと、「テクノ・ストレス」というけれども、ものすごくいやな疲労感を感じる。甲斐のない疲労感。ぼくはプロンペンの電報局でヤモリの交尾を見ながら回線を何時間も待っている状態の方が、まだ自然だったとおもう。そのときも、徒労感とか、疲労感とか、あきらめの感じとかはもちろんなあった。けれども、コンピュータとむきあっているときの空漠たる想い、おかしな疲労感、まさに異様な疲労感、自分の生体に合わない疲労感とはちがうものでした。E

夜半にずっと火焰樹を見ていると、肉厚な赤い花がポトツと落ちてきたりする。あるいは、突然スコールみたいな夕立が来ると、火焰樹の花が落ちて、それが血溜まりのように路面を赤く染めていったりする。これこそがマチエールだと思う。もうわけもなく、涙がでてくるぐらい感動するの

です。それは懐かしくてしょうがない。

ああいう風景をみんな遅れたもののようにして、路面も替えていく。あの火焰樹自体も切りたおされたかもしれない。マチエールをうばわれると、人間の生体はとんでもないゆがみ方をしていくのではないかというのがぼくの直感としてはあるのです。

(辺見庸『しのびよる破局 生体の悲鳴が聞こえるか』、角川文庫。)

(注) ジャン・ボードリヤール：フランスの社会学者。一九二九～二〇〇七。

秋葉原事件：二〇〇八年に東京都秋葉原で派遣社員の青年によって起こされた無差別殺傷事件。

サラ金：庶民を対象とする小口で短期の信用貸し付け。

プノンペン：カンボジアの首都。一九七〇年から一九九一年まで内戦状態にあり、筆者は通信社の特派員として現地にいたことがある。

マチエール：人がものに対して直接に感じる具体的な印象のこと。質感や手触り、匂いなどを含む。

- ① 第一、うるさかったし、人間の所作として異様だとおもっていた。
- ② ところがいまや、ぼく自身が異様ともおもわないし、携帯を非常に多用して、依存もしている。
- ③ 人間が携帯電話を身体に内蔵したような生きものになってしまったことは、秋葉原事件の青年だけでなく多くの人が認めざるを得ない事実なのです。
- ④ むしろ生体に合っていた。そこには発見があった。
- ⑤ ただ、おかしいとつかのま感じてでもわれわれはすぐにデジタル世界の^{しん}蜃気楼に存在証明を消されてしまうのです。

第4問【古文】次の文章を読んで、後の問い（問1～3）に答えよ。

むかしあてなる男ありけり。その男のもとなりける人を、内記ないきにありける藤原敏行ふぢはらのとしゆきといふ人よばひけり。されど、若ければ、文もをさをさしからず、ことばも言ことひ知らず、いはむや歌はよまざりければ、かのあるじなる人、案を書きて、書かかせてやりけり。めでまどひにけり。さて、男のよめる、

つれづれのながめにまさる涙河袖なみだがはのみ漬ひちて逢あふよしもなし

返し、例の、男、女にかはりて、

浅あみこそ袖は漬ひつらめ涙河身さへ流ると聞かば頼まむ

と言ひければ、男、いといたうめでて、今まで巻きて文箱ふばこに（エ）入いれてありとなんいふなる。

男、文（オ）おこせたり。得てのちのことなりけり。「雨の降りぬべきになん見わづらひはべる。身さいはひあらば、この雨は降ふら（カ）と（キ）言いへりければ、例の、男、女にかはりてよみてやらす、

数々かずかずに思ひ思はず問ひがたみ身を知る雨は降りぞまされ（B）

とよみてやりければ、蓑みのも笠かさも取りあへで、しとどに濡ぬれて（キ）まどひ来きにけり。

〔伊勢物語〕第七七段による

問1 傍線部（ア）「言ひ知らず」、（イ）「書かせてやりけり」、（ウ）「めでまどひにけり」、（エ）「入れてあり」、（オ）「おこせたり」、（カ）「言へりければ」、（キ）「まどひ来にけり」の主語を、次の①～③のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は、（ア）∥ 26、（イ）∥ 27、（ウ）∥ 28、（エ）∥ 29、（オ）∥ 30、（カ）∥ 31、（キ）∥ 32。

- ① あてなる男 ② その男のもとなりける人 ③ 藤原敏行

問2 点線部「浅みこそ袖は漬つらめ涙河」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 。

- ① あなたの流す涙の河の浅い所こそ私の袖は濡れているのでしよう。
- ② あなたの流す涙の河が浅いからこそ私の袖は濡れているのでしよう。
- ③ あなたの流す涙の河が浅いからこそあなたの袖は濡れているのでしよう。
- ④ 私の流す涙の河の浅い所でさえこうして私の袖が濡れています。
- ⑤ 私の流す涙の河が浅いならば袖も濡れるでしょうが（いやそうではありません）。

問3 空欄 ・に入れるべき語を、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は A 34、B 35。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | ① | じ | ② | す | ③ | ず | ④ | む | ⑤ | め |
| B | ① | ず | ② | ど | ③ | ば | ④ | り | ⑤ | る |

